

英語科目【英語 I】に関する アンケート調査結果報告（その2）

松 村 豊 子

【英語 I】の授業は平成 23 年度も前年度に引き続き、“Spoken English”を言語基盤とし、同じ授業目的、形態、そして、内容を設定し、基礎教養科目の 1 つとして開講された。具体的には、共通テーマ (Self-introduction, My Favorite Things, My Favorite Place)、共通目的 (英語によるプレゼンテーション技術の向上)、そして、共通課題 (共通テーマに関する発表原稿の作成と口頭発表) を設定し、共通テキスト (Speaking of Speech, Macmillan) を使用した。1 クラスの受講者数は 20 名前後が授業効果の点では最適であるが、受講希望者が多く、30 名をはるかに越え、40 名になったクラスも 1 件あった。開講クラス数は社会学部〈1〉、メディアコミュニケーション学部〈7〉である。

英語プレゼンテーションに関する学生の学習姿勢及び教員の基本的な取り組み姿勢について現状把握のための資料の 1 つとするため、前年度に引き続き前期授業の最終日に学生及び教員に対して、2011 年 7 月 19 日と 21 日にそれぞれ付録 (1) のアンケート調査を実施した。学生からの回収回答者数は〈262〉、内訳は社会学部〈124〉、メディアコミュニケーション学部〈138〉である。教員からの回収回答者数は〈7〉である。

本年度の学生アンケート調査の結果は以下のとおりである。

◆調査項目(2)：英語によるプレゼンテーションが楽しいかどうか。

- A. 非常に楽しい < 26 名>
- B. 楽しい < 107 名>

C. どちらでもない < 5593 名>

D. あまり楽しくない < 25 名>

E. 楽しくない < 10 名>

◆調査項目(3)：英語によるプレゼンテーションを本学入学前に経験したことがありますか。

A. はい < 50 名>

B. いいえ < 207 名>

◆調査項目(4)：海外研修、あるいは、海外旅行をしたことがありますか。

A. はい < 75 名>

B. いいえ < 187 名>

◆調査項目(5)：取り組みやすかったトピックはなにですか。(複数回答可)

A. Self-introduction < 60 名>

B. My Favorite Things < 77 名>

C. My Favorite Town (Place) < 133 名>

◆調査項目(6)：学外で英語を話したことがありますか。

A. はい < 89 名>

B. いいえ < 166 名>

◆調査項目(7)：将来的に英語は必要だと思いますか。

A. はい < 237 名>

B. いいえ < 19 名>

◆調査項目(8)：英語学習について、特に学びたいものを 1 つ選んでください。(複数回答は無効)

A. リーディング < 43 名>

B. スピーキング < 127 名>

C. リスニング < 48 名>

D. ライティング < 31 名>

上記項目を前年度と比較すると、数値はほとんど変わらない。データの分析及び考察は別稿にゆずることにし、ここでは前年度と大きく異なる点は自由記載が多くなったことであることを指摘したい。回収回答者の半数近くが自由記載に積極的だった。昨年度は教師に対する感謝の言葉のみだったので、掲載を控えた。しかし、今年は学生の参加意識が高くなったことを示す表現が多数を占めるので、似た内容を割愛し、掲載することにする。

◆調査項目(9)：その他（意見、感想、質問等々）

- プレゼンは出来ないと思っていたが、出来たのでたのしかった。
- 話すことに慣れ、英語が好きになった。高校より楽しい。
- 高校の文法でなく、実用的な英語を学んだような気がする。
- チャレンジすることの大切さを知った。
- 夏休みの海外研修が楽しみ。
- 将来は海外で暮らしたい。
- イギリスへ行きたい。
- 表現力を磨きたい。
- スピーキングとライティングを後期授業で学びたい。
- パワーポイントをもっと上手く使いたい。
- パソコンのおかげで助かった。
- プレゼンは就職に役立つと思う。
- 先生に名前を覚えてもらえなかったのが、悔しい。後期は先生を見返す。
- 文章を作るのが苦手なので、文法等々の基礎も学びたい。
- スピーチ後の質疑応答を英語してほしい。
- 英語は苦手です。後期は履修しません。
- スピーチ原稿がだんだんと良くなると、苦手意識がなくなった。
- 先生のセンスが良かった。

教員対象のアンケート調査は以下のような結果である。

◇調査項目(1)：【英語 I】の授業では何に1番力点をおかれましたか。（自由記述）

- Voice Inflection の指導にはより力点を置きました。
- 「Writing からプレゼンへ」を意識した。加えて、音声練習に力点を置きました。
- Voice Inflection の指導には昨年より時間を割きました。
- 発表内容の充実とプレゼンテーション姿勢のトレーニング。
- 発表内容の充実と質疑応答の姿勢の指導に力点を置きました。
- Public Speaking。

◇調査項目(2)：英語とプレゼンテーションのいずれにどのような割合で力点をおかれましたか。（割合表示をお願いします）

英語：プレゼンテーション（＝3：7，1名），（＝4：6，1名），（＝5：5，3名），（＝6：4，1名），（7：3，1名）

◇調査項目(3)：英語プレゼンテーションの指導にあたり、学生のパソコン活用を奨励しますか。

A. はい <7名>

B. いいえ <0名>

◇調査項目(4)：トピックについてご意見をお聞かせください。（自由記述）

- 大変進行しやすいトピックで有難く思っています。
- My Favorite Things は皆好きである。
- 昨年は“My Favorite Things”が好評、今年には“My Favorite Place”が好評でした。トピックは教える側も工夫がしやすく適切だと思います。
- 昨年度も今年度もトピックが学生が非常に入り安物なので大変やりやすいです。
- 身近なトピック、興味を抱くトピックを選んだつもりで、学生も積極的に取り組んでいたと思います。
- 特に問題なし。

◇調査項目(5)：受講者数、及び、使用教室についてご意見をお聞かせください。（自由記述）

- 特に問題なし。
- 35名くらいまででしたら、全く問題ありません。
- 2時限（41名）は指導困難・学習困難と感じています。
- D112（マルチリンガル教室）を月1回程度活用できれば、Voice Trainingなど音声指導に役立つと思います。
- 共通テキストを現在のプレゼン中心のものから、教員サイドがプレゼンテーションの形式に慣れたように思われるので、語彙・発表表現を豊かにするテキストに変更してもよいのではないのでしょうか。

教員アンケートを昨年のもものと今年度のもものを比較すると、明らかに今年度の方が従来形態に慣れ、プレゼンテーションの教授方法に対する暗模索状態を脱し、より良い授業を目指していることがわかる。授業効果が上がっていることは学生アンケート結果、特に自由記述が多様になったことから明らかと思われる。

【英語Ⅰ】の教育目的である英語コミュニケーションは学生参加型のいわゆる“interactive”な授業内容と形態であるため、今後も定期的にアンケート調査を実施し、担当教員の共通認識を培い、更なるレベルアップを目指すことにする。

付 録

調査用紙 (1)

〈英語 I〉に関する授業アンケート

- 1) 所属学科はどこでしょうか。
A. 人間心理 B. ライフデザイン C. 経営社会
D. マスコミュニケーション E. 情報文化
- 2) 英語によるプレゼンテーションはどうか。
A. 非常に楽しい B. 楽しい C. どちらでもない
D. あまり楽しくない E. 楽しくない
- 3) 英語によるプレゼンテーションを本学入学以前に経験したことがありますか。
A. はい B. いいえ
- 4) 海外研修, あるいは, 海外旅行をしたことがありますか。
A. はい B. いいえ
- 5) トピックのうち, 取り組みやすかったトピックは何ですか。(複数回答可)
A. Self-introduction B. My Favorite Things
C. My Favorite Town (Place)
- 6) 学外で英語を話したことがありますか。
A. はい B. いいえ
- 7) 将来的に英語は必要だと思いますか。
A. はい B. いいえ
- 8) 英語学習について, 特に学びたいものを1つ選んでください。
A. リーディング B. スピーキング
C. リスニング D. ライティング

その他 (意見, 感想, 質問等々)

調査用紙（2）

- 1) 〈英語 I〉の授業では何に一番力点をおかれましたか。

- 2) 〈英語 I〉における英語プレゼンテーションの指導では、英語とプレゼンテーションのいずれにどのような割合で力点をおかれましたか。（割合表示をおねがいします）
A. 英語【 】 B. プレゼンテーション【 】

- 3) 英語プレゼンテーションの指導にあたり、学生のパソコン活用を奨励しますか。
A. はい B. いいえ

- 4) トピックについてご意見をお聞かせください。

- 5) 受講者数、及び、使用教室についてご意見をお聞かせください。